松前町地域公共交通活性化協議会　平成20年2月25日設置

別紙2

概　要

松前町は、北海道の最南端に位置し、海岸線に沿い唯一の幹線道路である、国道２２８号が東西３９.８ｋｍが整備され、東に福島町、北には上ノ国町が隣接、西は日本海、南は津軽海峡に面し、東西１８．８ｋｍ、南北３１．５ｋｍあり、面積２９３．２５ｋ㎡を有しています。また、道南の中心都市函館市から約１００ｋｍの距離に有り、木古内町までは乗合バス、木古内町から函館市までは、乗合バス及び鉄道によって結ばれています。

○地域公共交通の現況

1　地域生活バス「大漁くんバス」（町内・1路線・地域内フィーダー系統）
2　函館バス株式会社（3路線）　・函館松前線（地域間幹線系統）・木古内松前線（地域間幹線系統）・小砂子線（上ノ国町地域内フィーダー系統）
3　スクールバス（5路線）
4　ハイヤー　1事業者
5　福祉タクシー　1事業者

○地域公共交通の課題

1　交通サービス維持のための財政負担の増加
2　運転手不足など将来的課題
3　人口減少等に伴う継続的な利用者の減少

○調査の主な内容

・公共交通の現状及び利用実態調査
・交通に関するニーズ及び課題把握調査
・協議会の開催

○地域公共交通活性化協議会開催状況

・令和4年6月20日　第35回協議会開催
　松前町地域公共交通計画の策定について　等
・令和5年1月6日～18日　第36回協議会開催（書面会議）
　地域内フィーダー系統確保維持計画　事業評価の承認について等

公共交通の概要

種別	運行系統
―	地域内フィーダー系統（大漁くんバス・基本路線）
―	〃　（大漁くんバス・便、曜日により異なる経路）
―	地域間幹線系統（木古内・函館間）
―	地域内フィーダー系統（上ノ国町・小砂子線）

松前町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

別紙2

●事業の結果概要

利用実態調査

対象路線　　函館松前線、木古内松前線、大漁くんバス
調査実施日　令和4年10月23日（日）、24日（月）、26日（水）
調査人数　　396人
調査項目　　利用目的、利用頻度、乗継ぎの有無、支払い方法
調査結果は現在詳細分析中です。

【調査結果の概要】

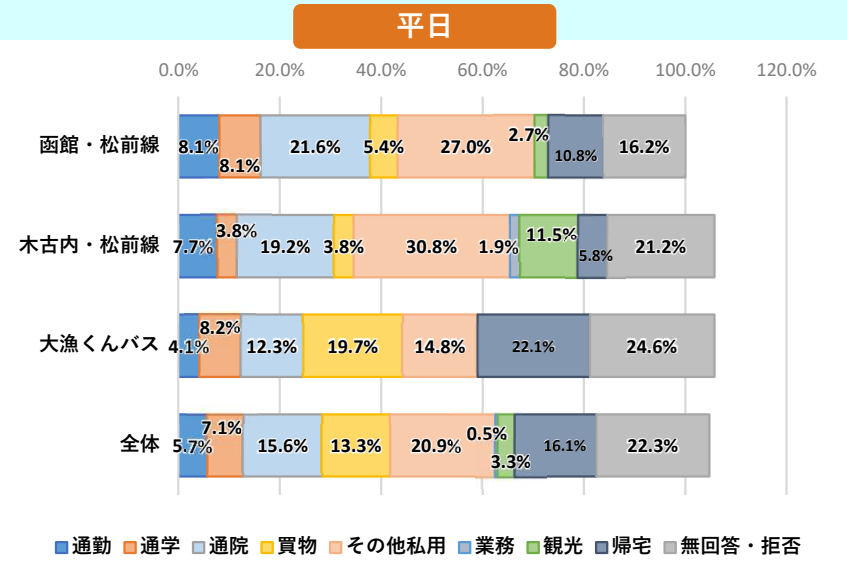
・利用目的は、「その他私用」を除くと、平日では「通院」、休日では「買い物」の割合が高くなっている。あわせて、木古内・松前線は、「観光」目的の利用も多くなっている。

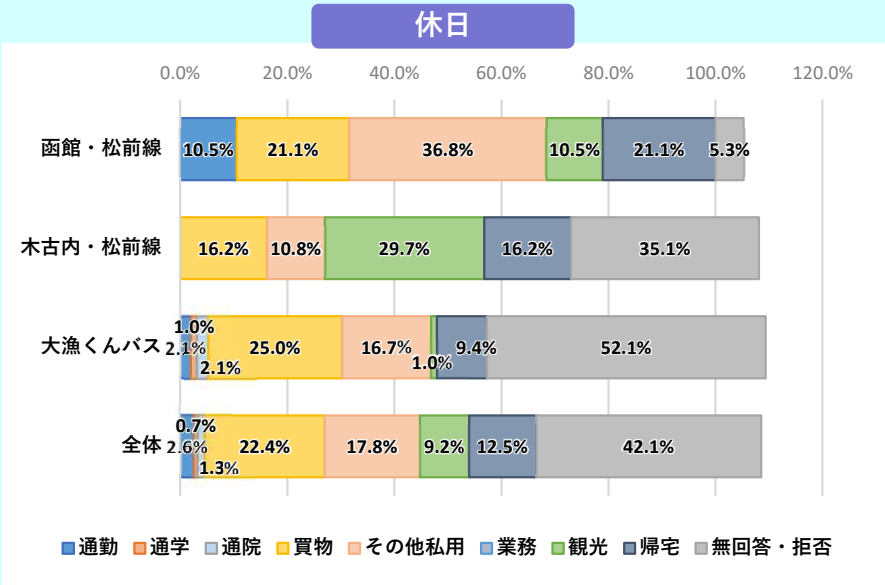
・「ICカード」の利用割合は3～4割に留まっており、依然として現金の割合が高くなってる。

・年齢は、全体で「65歳以上」の割合が約6割を占めている。

・利用頻度は、平日、休日ともに「週に1～2日」以上の比較的利用頻度の高い方の割合が半数を占めている。

バスの主な利用目的（複数回答）



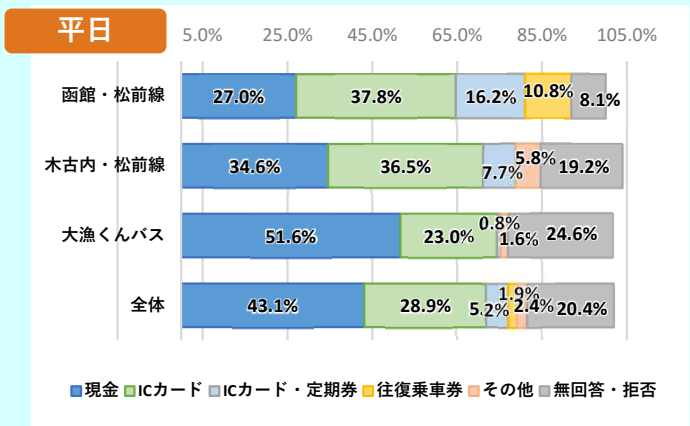


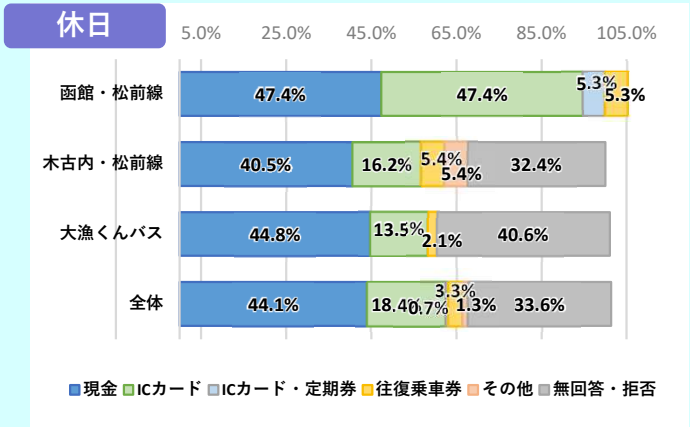
松前町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

別紙2

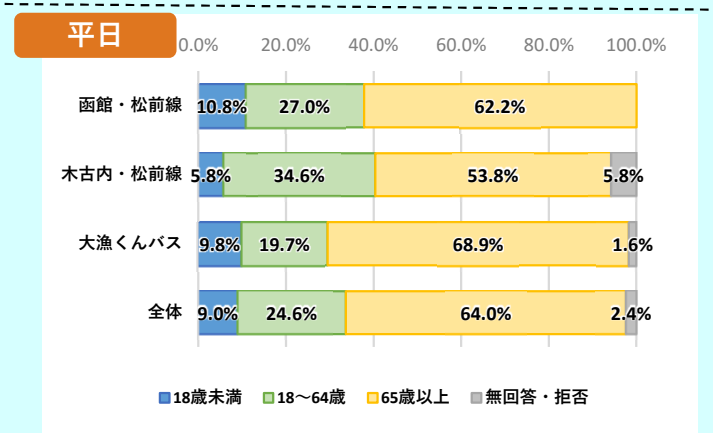
●事業の結果概要

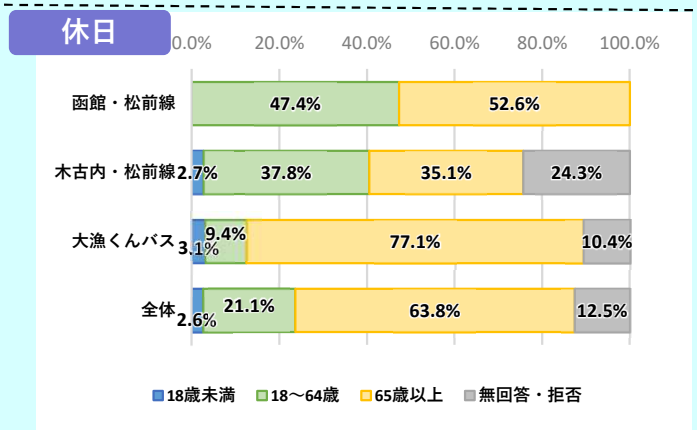
バス料金の支払い方法（複数回答）



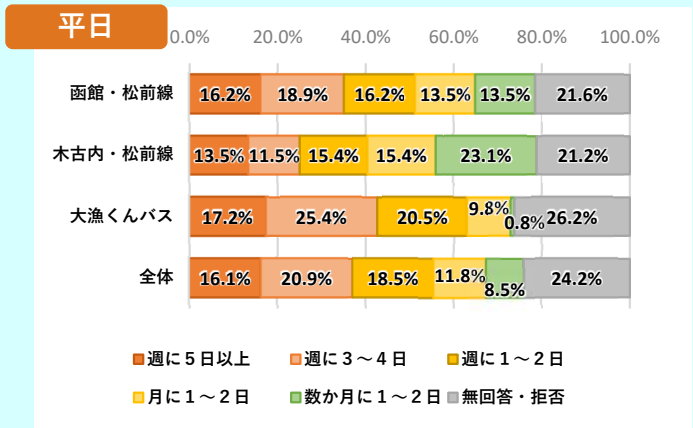


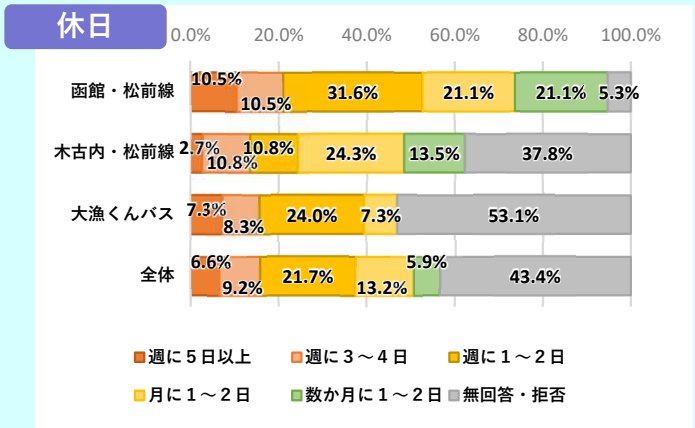
回答者の年齢（単数回答）





バスの利用頻度（単数回答）





松前町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

別紙2

●事業の結果概要

交通に関するニーズ及び課題把握調査
調査対象世帯　1，000世帯（系統抽出法により抽出）
配布枚数/回収枚数　1，600枚/625枚
調査期間　令和4年10月25日（火）～11月18日（金）
調査結果は現在詳細分析中です。

【調査結果の概要】

路線バス・大漁くんバスの利用状況

・年代別では、70代、80代以上の「数か月に1回以上」の利用の割合が2割程度となってる。

・CSポートフォリオ分析では、「バスの運行経路」、「運行便数」、「始発時間」、「終発時間」、「バスとJRの乗り継ぎ」、「路線バスの運賃」が重点改善分野に位置づけられている。

「運行便数」は、午後からの便数が「少ない」や「合わない」との意見が多く、「終発時間」に関しても夜の便数が「少ない」という意見が寄せられ、午後の便数に関する不満の割合が高い傾向となっている。

「バスの待合環境」は、待合所がないとの意見も多く見られ、冬期でのバス待ちが大変との意見が見られ。

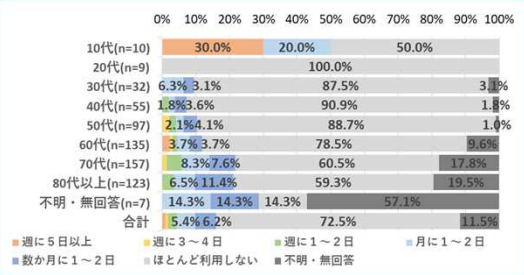
「路線バスの運賃」は、運賃が高いとの意見が寄せられた一方で、「大漁くんバスの運賃」への要望は寄せられていない。

タクシーの利用状況

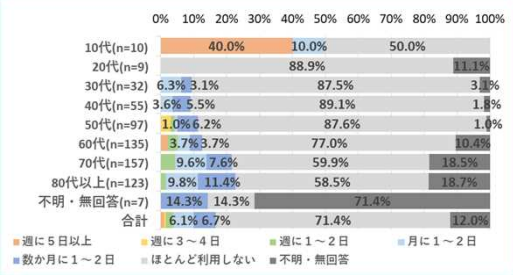
タクシーの利用頻度は、日常的に利用している方はわずかですが、本庁では数か月に1～2日以上利用する方の割合は約1割となっている。

普段タクシーを利用しない理由は、「自家用車があるため」が約7割となっている。

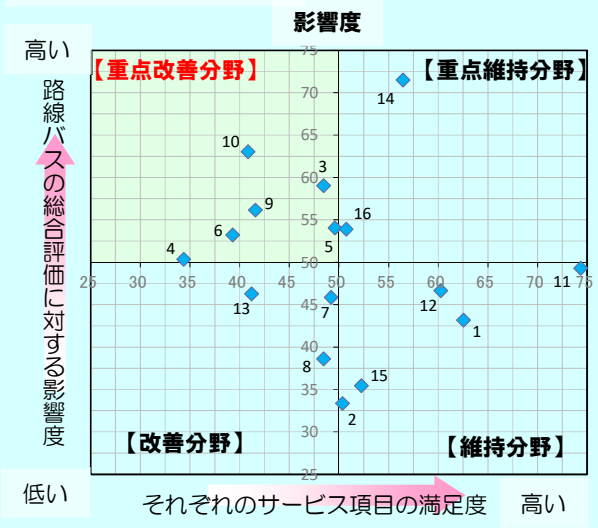
▼【夏期】バスの利用状況（n=625）



▼【冬期】バスの利用状況（n=625）

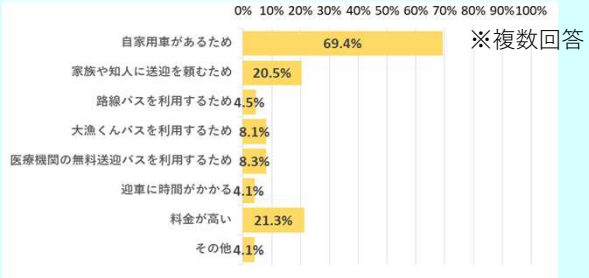


ＣＳポートフォリオ分析



	サービス項目	満足度偏差値	影響度偏差値
1	最寄りのバス停までの距離	62.5	43.2
2	バス停から目的地までの距離	50.4	33.4
3	バスの運行経路	48.5	59.0
4	運行便数	34.4	50.4
5	始発時間	49.6	54.0
6	終発時間	39.3	53.2
7	バスの遅れ	49.2	45.9
8	バスからバスへの乗り継ぎ	48.5	38.6
9	バスとJRの乗り継ぎ	41.6	56.2
10	路線バスの運賃	40.8	63.0
11	大漁くんバスの運賃	74.4	49.3
12	運賃の支払い方法	60.3	46.7
13	バスの待合環境	41.2	46.3
14	車内環境や乗り心地	56.5	71.5
15	車内の混雑状況	52.3	35.4
16	バス事業者が提供している情報	50.7	53.9

▼タクシーを利用しない理由（n=507）



※複数回答

※タクシーを「ほとんど利用しない」と回答した方

松前町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

別紙2

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

・現在各調査結果の詳細分析中であることから、分析結果を基に基本計画案をまとめ本年度中に第37回松前町地域公共交通活性化協議会を開催する。また、令和5年度において、実施事業案をまとめ、同年度中に松前町地域公共交通計画を策定します。

松前町地域公共交通計画の方向性（案）

現状・問題点	課題	基本方針（案）	課題解決の方向性
町内は、大きく4つの地区に分かれ、大沢、大島、小島の各支所は国道沿線に集落が形成 大型スーパーや総合病院、高校などの主要施設は、本庁支所に立地 公共交通カバー率は9割以上と高い 大漁くんバスは、松前出張所、建石団地前、町営団地前、松前病院前、松前温泉での利用が多く、利用目的が明確 ▸松前出張所：乗り継ぎ　▸建石団地前、町営団地前：買い物、通院　▸松前病院前：通院　▸松前温泉：余暇（温泉） 町内のバス利用の目的地は、ラルズマート、イエローグローブ、町立松前病院、よしだ整形外科に集中 バスの主な利用目的は、買い物と通院 路線バスは、町内の移動だけでなく、町外との移動で多く利用されており、特に、休日は、その傾向が顕著 路線バスの利用者は、平日、休日ともに「週に1～2日」以上の比較的利用頻度の高い方の割合が半数を占めている	公共交通ネットワークの維持	持続可能な公共交通体系の確立と利便性の向上	・需要を集約しやすい地勢となっていることから、既存の路線バスの運行体系を維持を図る 福島町や函館市など、町民の町外への移動需要も存在していることから、今後も地域間幹線系統の維持を図る
運行便数、バスの待合環境、終発時間に関する不満の割合が高い 重点改善分野は、バスの運行経路、運行便数、始発時間 、終発時間、バスとJRの乗り継ぎ、路線バスの運賃 午後～夕方にかけての運行便数や運行ダイヤに関する不満が挙げられている バス-バス間及びバス-鉄道間の乗り継ぎが不便 通学需要が見込まれる松前高校前は、利用が少ない 停留所の清掃状況や冬期のバス待ちなど、厳しい待合環境	路線バスサービスの改善		利用者ニーズに対応した運行ダイヤの見直しと乗り継ぎ利便性の向上を図る 上屋や風よけの設置など待合施設の整備や沿線施設を活用した待合環境の整備
人口減少と少子高齢化の進行により、公共交通の利用者が減少 運転免許自主返納数が増加しており、積極的に免許返納を検討している方の割合は約6割 運転免許を返納する際の最も重要な条件は、公共交通の利用環境に関する意見が多い 運転免許を返納する際の最も重要な条件は、公共交通の利用環境に関する意見が多い 自家用車での送迎は、高齢男性による送迎実態が顕著であるが、送迎は負担ではないとの回答が約8割 医療機関による送迎バスの運行 豊岡地区や弁天地区など、停留所までの距離が遠い地区が存在 タクシーの日常的な利用は少ない	人口減少、少子高齢化に対応した公共交通体系に向けた検討		・人口減少と少子高齢化の進行により、公共交通の需要減少が予測されることから、ドアツードアサービスの導入やダウンサイジング化の検討を行う ※自動運転、AIオンデマンド　等 ・深夜等の路線バス運行時間外でのタクシー活用 ※タクシーの維持 ・免許返納者への支援
スクールバスの登録者数は減少傾向だが、現状での一般混乗は困難 医療機関等の無料送迎バス運行による公共交通利用者の減少 約2割の方が医療機関の無料送迎バスを利用した経験があり、その多くが松前町立病院 医療機関の無料送迎バスが無くなった場合は、公共交通を利用して通院すると回答した割合が全体で約5割	輸送資源の有効活用（最適化）		・運転手不足が深刻化しており、今後、各輸送サービスの利用者減少も見込まれることから、交通サービスの一元化に向けた検討 ・町内で運行しているスクールバスと松前病院の送迎バスについて、路線バスや大漁くんバスへの一元化を図る ※スクールバス：需要減少に合わせて実施を検討 ※松前病院の送迎バス 町内の利用者：路線バスへの転換意向が比較的高い 町外の利用者：路線バスに集約し、バス停までの移動を支援（タクシー助成など）

松前町地域公共交通活性化協議会　計画策定に係る事業の取組状況

別紙2

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

現状・問題点	課題	基本方針（案）	課題解決の方向性
コロナ禍により観光客数が減少 木古内・松前線は、「観光」目的の利用も多い ICカードの利用率は3～4割となっており、現金の割合の方が高い 夏期・冬期ともに、路線バスを利用する割合は「1割未満」 交通系ICカードの利用率は約1割となっており、使い方がわからないとの回答が約3割存在 スマートフォン普及率は約6割	アフターコロナに向けた公共交通の利用促進	町民利用と観光需要の両輪による公共交通の維持	●町民 ICカードの普及促進　・出前講座の開催やイベント等での利用促進 ●観光需要 ・転入者へのバス路線等の周知　・周遊パス等の活用による利用促進の実施　※広域計画との連携など ・新技術の活用による利用促進　※MaaSなど
コロナ禍による公共交通の利用者減少と収支悪化 路線バス運転手の乗務員不足 タクシー運転手の高齢化 燃料費の高騰	地域公共交通の維持	地域公共交通の維持	・交通事業者の支援（補助）検討

●事業実施の適切性

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初の予定から遅れたが、予定していた事業は全て年度内に実施する予定である。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

・事業は概ね計画どおり実施されている。
・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
・今後、地域公共交通計画策定の際は、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。